

第 26 回 発電用設備規格委員会 材料専門委員会 議事録

1. 日 時: 2015 年 2 月 24 日(火) 13 時 30 分～17 時 40 分
2. 場 所: 日本機械学会 第 1 会議室
3. 出席者: 委員総数 18 名中、出席者 16 名(代理1名)、欠席者 2 名
高橋(電中研)、木村(NIMS)、浅山(JAEA)、木原(ベストマテリア)、三枝(電中研)、澤田(NIMS)、榎木(日鉄住金テクノロジ)、田中(日本製鋼所)、藤森(日立 GE)、朝田(三菱重工)、齋藤(三菱重工)、安田(原安進)、井手(東電)、村上(MHPS)、久布白(IHI)
代理人: 森[伊勢田(新日鐵住金)]
欠席者: 山田(中電)、高橋(東芝)
オブザーバー: 尾崎(東電)
事務局: 小沢、原
4. 配布資料
資料材 26-1 第 25 回材料専門委員会議事録(案)
資料材 26-2-1 材料専門委員会委員名簿
資料材 26-2-2 材料専門委員会委員出席状況
資料材 26-2-3 材料専門委員会 新材料規格化分科会委員名簿
資料材 26-2-4 材料専門委員会 材料規格統合化分科会委員名簿
資料材 26-2-5 材料専門委員会 材料事象解説分科会委員(案)
資料材 26-3 第 72 回発電用設備規格委員会議事録(案)
資料材 26-4 第 6 回新材料規格化分科会議事録(案)
資料材 26-5-1 第 5 回材料規格統合化分科会議事録(案)
資料材 26-5-2 第 6 回材料規格統合化分科会議事録(案)
資料材 26-6-1 開示制限データ取扱い要領案の規格委員会における書面投票意見と回答案
資料材 26-6-2 提供データ取扱い要領(内規)(案)
資料材 26-7 資料なし
資料材 26-8 各温度における許容引張応力 S 値に関する規格間比較について
資料材 26-9 SN 材の規格化のための検討について(依頼)(案)
資料材 26-10 JSME 発電用原子力設備規格 材料規格 2013 年追補
添付 1 新規材料採用ガイドラインにおける Su、Sy 値策定のための手順書案(内規)
資料材 26-11 材料専門委員会 課題対応一覧(tracking List)

5. 議事内容

(1)開会

開会時において出席者は委員総数 18 名の 2/3 以上(12 名以上)の16名であり、本委員会は成立することを確認し、高橋委員長が委員会開催を宣言した。出席者が自己紹介を行った。

(2)議事次第確認

議事次第(案)と配布資料を確認した。

(3)議事録(案)の確認【材 26-1】

第 25 回材料専門委員会議事録(案)の確認を行い、下記 2 項目を修正して議事録案は承認された。

- ・3. 出席者:村上委員の所属「バブ日立」を「MHPS」に修正
- ・5. (6) 6-1 「新材料規格分科会」を「新材料規格化分科会」に修正

(4)委員委嘱関係【材 26-2-1、26-2-2、26-2-3、26-2-4、26-2-5】

- ・材料専門委員会投票(No.17)の結果、高橋委員長が次期委員長に選出されたことが、事務局から報告された。専門委員会運営規約第 5 条 2 項及び 3 項に従い、木村副委員長と山田幹事が引き続き次期の副委員長と幹事に指名された。
- ・井手委員が 3 月 10 日付退任予定であることが報告された。
- ・尾崎宏氏(東電)と寺田芳弘氏(東工大)の材料専門委員会委員選出が、出席委員全員(16 名)の賛成で了承された。
- ・岡田浩一氏(新日鐵住金)、豊田哲也氏(日立 GE)、山下拓哉氏(JAEA)、田中勇太氏(IHI)、山田一輝氏(MHPS)、林貴広氏(東芝)、浅山泰氏(JAEA)、茂山治久氏(電中研)の材料事象解説分科会委員選出が、出席委員全員(15 名)の賛成で了承された。

(5)規格委員会報告【材 26-3】

第 72 回発電用設備規格委員会議事録(案)の材料専門委員会関連部分が報告された。

(6)分科会報告

6-1 新材料規格化分科会報告【材 26-4】

第 6 回新材料規格化分科会議事録(案)を用いて、活動状況及び審議提案項目が報告された。新材料規格化ガイドラインの標本の定義に関する指摘事項に関して議論が行われ、新材料規格化分科会に対して改正案等の検討が依頼された。

6-2 材料規格統合化分科会報告【材 26-5-1、26-5-2】

第 5 回及び第 6 回材料規格統合化分科会議事録(案)を用いて、活動状況が報告された。

(7)その他報告

事務局より、「材料事象に関する解説」の出版及び購入方法が説明された。また、データ解析に用いるためのノートパソコンを購入したことが報告された。

6. 審議事項

(1)「開示制限データ取扱要領(案)」書面投票の意見対応【材 26-6-1、26-6-2】

「開示制限データ取扱要領(案)」書面投票の意見対応(案)が澤田委員から説明され、意見対応内容について審議を行った。主な意見は以下の通り。

- ・本取扱い要領が対象とする提供データの範囲
- ・5. その他 (3)項の記載を修正
- ・「第三者への開示制限があるデータ」の定義の明確化

審議の結果、2 月 25 日(水)までにコメントを澤田委員に送付し、コメントを取り纏めた見え消し版と意見対応案に関して 2 月 26 日(木)からメール審議を行うこととした。

(2)材料事象解説分科会の進め方【資料なし】

材料専門委員会三役の主導により、今回の材料専門委員会までに第 1 回分科会を開催し、三役候補の選出及び活動方針等を審議することとした。

(3) 許容引張応力 S 値に関する材料規格間比較について【材 26-8】

各温度における許容引張応力 S 値に関する規格間比較結果が井手委員及び安田委員から説明され、審議を行った結果、継続審議を依頼した。主な意見等は以下の通り。

- ・JIS G3103、SB450M 等の室温の S 値の違いに関して、JSME 火力規格が参照している JIS B8267 の許容応力の設定方法について木原委員から説明があった。
- ・JIS G3120、SQV1B 等の S 値の高い値の設定根拠が火技解釈に由来していることを確認した
- ・火力規格に S_u 、 S_y が必要かどうかの検討が必要
- ・火力と原子力で共通の材料の数を確認してはどうか
- ・引用 JIS 規格年版の考え方を確認する必要がある
- ・許容応力表の統合の必要性について再検討が必要

(4) SN 材に関する検討依頼について【材 26-9】

SN 材の規格化のための検討依頼に関して安田委員から説明があり、審議を行った。主な意見等は以下の通りである。なお、明日(2/25)開催予定の原子力専門委員会にて承認された後、材料専門委員会に対して正式に依頼される予定である。

- ・SN 材の許容値策定に用いる材料試験データは、電力中央研究所のホームページにて公開済みであり、「開示制限データ取扱要領(案)」の適用は不要である
- ・SN 材に関する検討は、新規採用ガイドラインの 2.1 に該当するものとする
- ・物性値についても材料専門委員会として検討を行う
- ・ガイドラインは年版によらず内容は同一である
- ・TMCP 鋼の 0.2%耐力が 250℃以上で上昇する挙動を確認した
- ・TMCP 鋼に独自の許容値を設定する場合には、TMCP の条件も併せて規定する必要がある

以上の審議の結果、原子力専門委員会から正式に検討依頼がなされることを条件に、材料専門委員会の検討課題とすることが、出席委員全員(15 名)の賛成により承認された。

(5) S_u 、 S_y 値策定のための手順書案(内規)について【材 26-10】

時間の関係で審議無し。次回材料専門委員会にて審議することとした。

(6) その他

木村副委員長により材料専門委員会課題対応一覧(Tracking List)【材 26-11】を確認した。

- ・CS キャビネットの運用が開始されたため、ファイル共有機能の運用ルール(RQ12-C2-001)は審議終了とする
- ・原子力専門委員会からの正式な検討依頼を条件に、SN 材の規格化のための検討を新規課題とする(RQ15-C3-001)

7. 次回開催予定

日 時:2015 年 5 月 28 日(木) 13:30-17:00 (予定)

場 所:日本機械学会第 1 会議室

以 上